

## 薩摩黒島の森林植物群落

【所 在 地】鹿児島郡三島村大字黒島

【種 別】国指定天然記念物（植物）

【指定年月日】平成23年9月21日



薩摩黒島は、大隅諸島のうち薩摩半島と屋久島のほぼ中間に位置する三島村の島々の一番西にある島である。黒島はトカラ火山列の旧期火山島で、新第三紀中新世から第四紀更新世に成立したとされる安山岩からなる古い火山島である。そのため、強い波食の影響を受けた海食崖に囲まれた地形で、海沿いから断崖部、緩斜面部、山岳部に区分される。

海岸沿いの断崖部は岩の割れ目に根を張ったマルバニッケイ群落が点在し、緩斜面部・山岳部ではスダジイ群落、アカガシ群落などの照葉樹を中心とした森林が成立している。山岳部では、中国原産と考えられていたハランや本土の山地に生育するスズタケ、トカラ列島に固有なトカラカンアオイなどが林床に生育する独特の植物相を持った森林が発達している。さらに、アカガシは屋久島が南限となり、このような小面積の島でアカガシが分布することは全国的にも非常に希なことである。

このような特異な植物相の森林植物群落が、海岸線付近から山頂部まで連続的に良好な状態で残されており、天然記念物として指定し保護を図る。